氏等によりて推示されたことは周知の事であるが、何れも今日學界の承認する所となつてゐない。而して縱令これらの何れかを月氏に當るものとしても、それが前漢時に大夏を從へ、オクサスの北に王庭を設けて居つたといふやうな確實な史實を見出すことは出來ない。マルクワルト⑩はストラボンの地理書に希臘人の建てゝ居つたバクトリヤ王國を奪つたスキタイ族として *Αστοι, Ηαστανοι, Τοχαροοι, Σακαραυλοι* の四部が記され、而して Trogus Pompeius の記錄から Asiani の諸王は Tochara の地に主權を有して居つたことが知られるので、この Asiani といふのはストラボンの記してゐる Pasianoi と同一名で、然も Pasianoi は Gasianoi の誤に外ならぬ。月氏の古音は getti に近いと思はれるから Pasianoi 卽ち Gasianoi は月氏に相當する。而して Tochara は大夏に當るから Trogus Pompeius の記して居る所は漢史に月氏が大夏を服屬せしめたと見える事實に對應するものであると說いた。これは甚だ巧妙な論證であるけれども、餘りに巧妙に過ぎて却つて人の贊成を失つた感がある。縱令これを認めるにしても Gasianoi 卽ち月氏については、その後何等の消息も知ることは出來ないのである。然るに等しくこの Trogus Pompeius の記錄をそのまゝに利用して、Asiani は卽ち月氏であるといふ說が近時頻りに獨逸で主張されて居る。

新疆省の探檢によつて、カラシャール卽ち古の焉耆地方で、往昔佛典の用語として一種のアーリヤ語が行はれて居つたこと、而してそれをあるトルコ語の佛典の跋文に見えて居る徵證によつてトクハラ語と稱するに至つたことは更ためて說く要はない。然るにこの言葉はトルコ人によつては Toχri 卽ちトクハラ語と稱せられたけれども、それ自身では何と呼んで居つたか不明であつたが、獨逸のシーグ（Sieg）氏⑪は、この語で韻文に譯した彌勒譬諭懸記の序文や奧書に ārśi 語といふ名が見えて居り、譯者の自記中の斷片に「ārśi 語で韻文に譯しようとの考を起し